

国立大学法人琉球大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

琉球大学は、真理の探究、地域・国際社会への貢献、平和・共生の追求を基本理念とし、アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学を大学像とするとともに、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材の養成を目標としている。第2期中期目標期間においては、熱帯・亜熱帯島嶼の地域特性に根ざした世界水準の教育研究拠点形成や豊かな教養と自己実現力を有し、総合的な判断力を備えた人材の養成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「琉大グローバルシティズン・カリキュラム (University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum)」の全学的導入、教育課程の可視化・体系化のほか、「琉球学副専攻」を平成25年度に設置することを決定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 女性研究者に対する支援・相談体制の整備・充実のため、「うない研究者支援センター」を設置するとともに、女性研究者を積極的に採用するためのポジティブアクション導入等の取組を行い、女性研究者の在職者数は130名（対前年度比5名増）、女性研究者比率は14.6%（対前年度比0.6%増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 沖縄県や企業等との連携をより密にし、「沖縄植物工場実証事業」等の受託研究等の

受入れ増加により、外部資金比率は法人化以降、最も高い 4.0 %（対前年度比 0.4 ポイント増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③情報セキュリティ、④法令遵守）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学士課程教育の質の向上に資するため、「琉大グローバルシティズン・カリキュラム（URGCC）」を全学的に導入するとともに、教育課程の一層の体系化、シラバス及びファカルティ・ディベロップメント（FD）の充実等、学士教育プログラムの充実・強化を組織的に推進している。
- 「教学評価体制（IR ネットワーク）による学士課程教育の質保証」（代表校：北海道大学）及び「大学 IR コンソーシアム」（代表会員：同志社大学）に参画し、共通の学生調査による学修時間等の把握等、客観的なデータに基づいた学士課程教育の質保証システムの創出に取り組んでいる。
- 新たに学部学生、修士課程及び博士課程前期の学生を対象とする成績優秀・学術優秀者に対する授業料免除を実施し、全体で延べ 2,394 名（15.5 %）が授業料免除を受

けている。

- 法文学部の考古学チームが長崎県松浦市の鷹島沖で発掘した 730 年前の元寇船の海底遺跡（史跡「鷹島神崎遺跡」）に関して、長崎県松浦市と連携協定を締結し学術研究を推進している。
- 工学部では、「海藻工場パイロットプラント」を製作し、国・県及び産業界との連携、共同研究を推進するため、企業等外部からの見学や取材を積極的に受け入れるとともに、農学部では、「沖縄型植物工場実証事業」（5,500 万円）等を受託するなど、県内関係機関との産学官連携研究を開始している。
- 離島支援プロジェクトの一事業として、「琉大塾」を新たに開催し、大学のない離島地域の児童・生徒と大学生とが触れ合う機会を拡充している。
- 理学部では、「サンゴ礁島嶼系における気候変動による危機とその対策」の研究を進めるため、パラオでの予備調査、具体的な研究立案等を行うとともに、パラオ国際サンゴ礁センター、パラオ短期大学との覚書を締結し、共同研究に関する環境整備を行っている。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」を活用し、学内外の医療系学生、初期研修医及び県内医療従事者に対するシミュレーション教育を実施したほか、この分野で先進的に取り組んでいるハワイ大学等と連携して、県内のシミュレーション教育指導者の養成を行っている。

（診療面）

- 沖縄県の離島・へき地病院の専門医療に寄与することを目的に、遠隔画像診断センターを設置して、県立北部病院とネットワークを構築し、専門医による読影を実施したほか、デジタル式遠隔病理診断顕微鏡システムにより、離島、へき地等の病院の病理診断を本学の病理医が担うことで病理医不足を補うなど、地域医療に貢献している。

（運営面）

- 地域医療部が中心となり、公立久米島病院や北大東診療所等の離島医療支援のため、巡回指導を実施している。
- 附属病院における財務運営費について、財務諸表上の附属病院セグメント（損益ベース）と事業報告書上の収支の状況（キャッシュベース）、それぞれの観点から、債務償還を含めた経営の実態、翌期以降将来に向けた人的投資、設備投資ができる予算があるのかなど、運営上の課題について今後十分な説明責任を果たすべきである。